



# 昔話「三宿の多聞寺山の夕ヌキ」

多聞寺の坂道はお寺の脇道で、風がのほろのような急な小径でした。そればかりでなく、森がつづき、昼間でもうす暗くて、一人で歩くのは恐ろしいところでした。ここは、風もどこから吹くのが、その日によって違うとも言われ、雨ともなれば、村の人たちは、ほとんど行き来をしないのです。

その日も風が吹き、雨が降り出しました。村の市助と吉蔵は、「このくらいの雨や風で驚くことはない」と言って、荷物を背負い、多聞寺の坂をのぼっていきました。

そのうちに、うしろにいた吉蔵は、どうしたことが、途中で息が切れて、足が進まなくなりました。市助は、坂の途中で木の根につかまると、「早く来い。このくらいの坂でへこたれるな」と、吉蔵を振り返って大声で叫びました。「足がもつれて進めないんだ」吉蔵も必死です。



旧多聞寺山 現在の三宿神社

そのときです。市助が背負っていた荷物のはじめが、するするとほどけて、足元に落ちました。

市助の荷物は、どうしたことが、両足の間をするりと抜けて、坂をころがり、吉蔵のいる方へ、勢いよく落ちていきました。吉蔵は、上から落ちて来る荷物をよけようとするのですが、足がすくんでいるので、市助の荷物にあたってしまいました。そのはずみで、吉蔵は、坂下の烏山用水（現烏山川）のわきに、もんどりうって倒れ、気を失ってしまいました。

ちょうどそのとき、法事をすませた和尚さんが、多聞寺に帰って来るところでした。和尚さんは、市助にも手伝わせ、吉蔵を寺に入れて、手厚く介抱しました。ところが、「これはお寺の森の夕ヌキの仕業だ」市助は、和尚さんに怒ったように言うのです。

和尚さんは、「寺の夕ヌキは、村づきあいの良い善人には、道案内をするような、やさしい夕ヌキだ。でも、心のまがった者には、悪さをするものだ」そう言って諭しました。

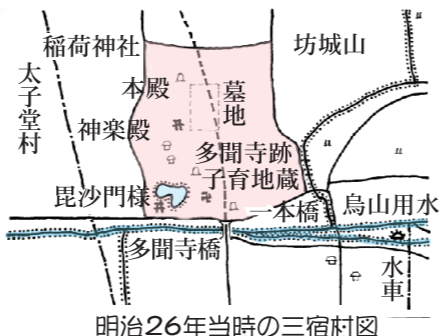
『せたがやの民話』櫻井正信・著（世田谷区発行）

文中に、多聞寺の和尚さんが二人を諭す場面があります。このことから、この昔話は、仏教（因果応報）説話ということができるとおもいます。

## 追記

1. 多聞寺は、武蔵吉良家十代目当主であった吉良政忠（生没年不詳）が開基した勝国寺の末寺です。また、多聞寺は世田谷城の支城（三宿城（砦））であり、吉良家代々の祈願所でもありました。
2. 明治時代になって、政府は神道の国教化を進めるために、神仏分離令を發布し神仏混淆を禁止しま

した。そのため、多聞寺は廃寺となり跡地に三宿神社が設置され、寺の本尊であった不動明王（大日如来の化身）は他所に移されました。その一方、不動明王の守護神であった多聞天は、毘沙門天と名前を変えて神社に祀られています。



# 電動キックボード等の安全利用ガイド

交通ルールに違反すると、反則切符等で取り締まりを受ける場合があります。

## 電動キックボード等を運転する前に

満16歳未満は  
運転禁止  
又貸しも禁止



自分の安全のためヘルメットを着用しましょう。

飲酒運転禁止  
一滴でも飲んだら  
運転できません。



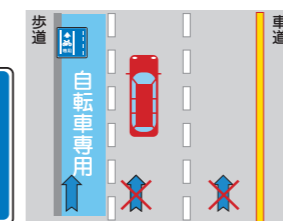
形状が電動キックボード等であっても、特定小型原動機付自転車に該当しないものは車両区分（一般原動機付自転車又は自動車）に応じた運転免許が必要で、該当する車種の交通ルールが適用されます。

## 主な交通ルール（原則は車道走行）

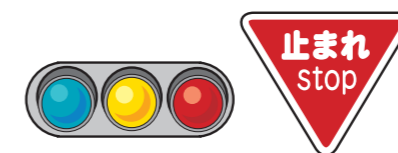
車道の左側を通行  
車線が複数あるときは一番左側の車線を走行してください。



自転車専用通行帯を通行



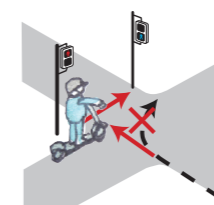
信号を守る  
停止線で停止して安全確認



## 交差点の通行方法

右折するとき

青信号で交差点の向こう側まで直進し、止まって向きを変え、対面する信号が青になったら直進します。



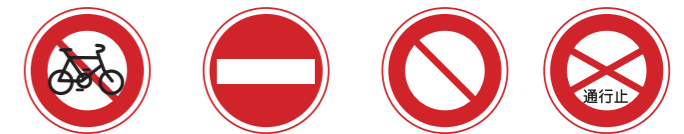
左折するとき

できる限り道路の左側に寄って徐行します。



## 標識に従うこと（主なもの）

通行・進入してはいけません。



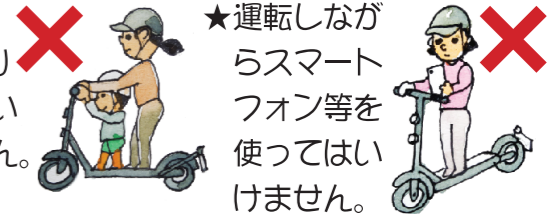
駐車してはいけません。

歩道に駐車する事もできません。



## その他

★2人乗りしてはいけません。★運転しながらスマートフォン等を使ってはいけません。



★交通事故が起きたら、負傷者の救護や、110番通報をしてください。



## 歩道を通行できる場合

※6km/hモードのない電動キックボードは歩道を通行できません。

①緑色の最高速度表示灯を点滅させ時速6km/hモードに切り換える。



※歩道に入る前に切り換えます。

②この標識がある歩道だけが走行できます。



この標識のない歩道は電動キックボードで通行できません。

③歩道は歩行者優先で車道寄りを徐行。

